東京新聞　2010年（平成22年）5月2日（日曜日）

東京新聞

大通り110メートル　渋谷アート空間

初の試み　4日「創造公園」

東京・渋谷駅近くの大通りを車両通行止めにして、〝野外芸術空間〟にする初の試み「創造公園渋谷」が四日、開かれる。三十代中心の気鋭のクリエーターらが「次世代の子どもたちのためにできること」を企画を練っている。大人も刺激する独創的な企画を

（増田恵美子）

音や映像…40組がパフォーマンス

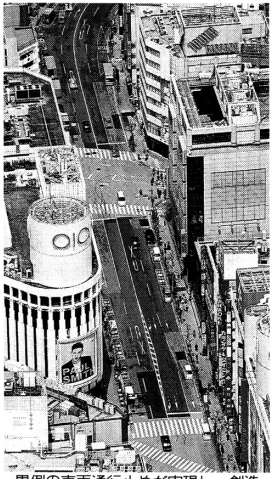
会場となるのは、渋谷を代表する繁華街の公園通りの一角で、マルイシティ渋谷からタワーレコード渋谷店までの全長百十㍍、幅二十七㍍の車道。当日は人気バンド「ミスターチルドレン」の音楽ビデオなどを手掛ける映像作家の丹下紘希さん(四)ら約四十組のアーティストが、展示や映像、音楽、パフォーマンスなど多彩な芸術活動を繰り広げる。渋谷公園通商店街で行われる「フラワーフェスティバル」の一環でもあり、人工芝の横断歩道もお目見えする。

また、阪神大震災後の神戸市や、中国・四川大地震の被災地など、世界各地で撮影した子どもたちの笑顔の写真を印刷した傘を、中国・上海市の万博会場と同時に百本ずつ開くイベント（午後二時五十分から）も実施。企画したアートディレクターの水谷孝次さん(五九)は、「Merry（楽しいこと）」をテーマに活動しており、「人間の強さと素晴らしさを子どもたちの笑顔を通じて世界に伝えていく」と意気込む。

創造公園渋谷を主催するのは、「アートをパブリック（公共）なものに戻そう」と、二月に結成されたプロジェクトチーム「Art Re-Public Tokyo」。チームのアートディレクターも務める丹下さんは「集まった仲間には『父親になった』という共通点があり、渋谷の街を見た時に『子連れで行ける街なの？』『子ども本来の自由な創造力を引き出せない街になっているのでは』と考えた」と語る。

参加アーティストも約四十人の運営スタッフも無償で集まり、渋谷署などの協力で、周辺では異例の歩行者天国も実現した。プロデューサーの河野友作さん(三三)は「渋谷らしく草の根から文化が生まれ、日本、世界へ発信できれば」とも願う。

当日は午後一時から四時まで。入場無料。



異例の車両通行止めが実現し、創造公園渋谷が開かれる車道＝東京都渋谷区で、本社ヘリ「あさづる」から

車両通行止めにする「創造公園渋谷」会場